

ばれいしょ

担当者 技能研究員 戸津 政紀

試験課題名	品種栽培展示圃
目的	食用、加工用の品種における栽培特性を比較、検討し生産技術の普及に資する
期待される成果	各品種の特性を把握するとともに、輪作体型と作付け指標に沿った計画的な作付けを推進する
連携機関	上川農業改良普及センター士別支所 JA北ひびき和寒基幹支所 和寒町蔬菜組合連合会芋部会

1 供試品種・資材

品種

※農林一号 男爵薯 ワセシロ トヨシロ キタアカリ メーカーン

※基準品種

2 耕種概要

土質～埴壤土

前作～大豆・小豆

浴光催芽～4月25日

植え付け日～5月17日

収穫日～9月16日

栽植密度

A区 標準栽培	農林一号・男爵薯・キタアカリ ワセシロ・トヨシロ・メーカーン	畦幅 75cm×株間 30cm	4,444株/10a当たり
B区 密植栽培	農林一号・男爵薯・キタアカリ ワセシロ・トヨシロ・メーカーン	畦幅 75cm×株間 25cm	5,333株/10a当たり

3 土壌診断結果と施肥量

(1) 土壌診断結果

(mg/100g)

pH	EC	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	CaO	熱水抽出N
6.1	0.074	65.3	39.5	48.4	217.1	11.6

(2) 土改資材と堆肥 (kg/10a)

炭カル～30kg

(3) 施肥内容 (成分量/%)

基肥～BBS004 (10-20-14-5) 5月17日 全層施肥

(4) 肥料の要素量

(kg/10a)

		N	P	K	Mg
基肥	BBS004 80kg	8.0	16.0	11.2	4.0
合計		8.0	16.0	11.2	4.0

4 調査項目

生育調査～浴光催芽始・植え付け・萌芽始・萌芽期・萌芽率・初期生育(6月20日)

着蕾期・開花期・茎葉黄変期・枯凋期・疫病指数

収量調査～総収量・規格内割合・M以上の製品率

5 生育調査

A区(標準栽培)

項目	品種	4,444株/10a当たり					
		農林一号	男爵薯	キタアカリ	ワセシロ	トヨシロ	メークイン
浴光催芽始		4月25日					
植え付け		5月17日					
萌芽始		6月1日	6月2日	6月1日	6月1日	6月3日	6月2日
萌芽期		6月4日	6月6日	6月3日	6月9日	6月8日	6月7日
萌芽率(%)		93.2	88.6	90.7	89.7	89.3	79.2
初期生育・6月20日(良5~不良1)		3	3	4	2	2	2
着蕾期		6月18日	6月19日	6月19日	6月22日	6月23日	6月22日
開花期		6月30日	6月30日	7月1日	7月3日	7月3日	7月2日
茎葉黄変期		7月31日	7月31日	7月30日	8月1日	8月4日	7月31日
枯凋期		8月25日	8月25日	8月23日	8月28日	8月29日	8月27日
疫病指数(多5~少1)		2	3	3	2	3	3

B区(密植栽培)

項目	品種	5,333株/10a当たり					
		農林一号	男爵薯	キタアカリ	ワセシロ	トヨシロ	メークイン
浴光催芽始		4月25日					
植え付け		5月17日					
萌芽始		6月1日	6月2日	6月1日	6月1日	6月3日	6月2日
萌芽期		6月4日	6月6日	6月3日	6月9日	6月8日	6月7日
萌芽率(%)		92.1	94.3	89.5	88.5	91.4	74.8
初期生育・6月20日(良5~不良1)		3	3	4	2	3	2
着蕾期		6月20日	6月19日	6月20日	6月22日	6月22日	6月22日
開花期		7月1日	6月30日	7月1日	7月3日	7月3日	7月2日
茎葉黄変期		8月4日	7月30日	8月1日	8月1日	8月6日	8月4日
枯凋期		8月28日	8月23日	8月27日	8月27日	9月2日	9月1日
疫病指数(多5~少1)		2	3	3	2	2	3

6 収量調査

A区(標準栽培)

項目		品種	4,444株/10a当たり					
			農林一号	男爵薯	キタアカリ	ワセシロ	トヨシロ	メイクイン
総収量		(kg/10a)	9,777	6,666	7,555	7,999	6,310	7,555
規格別収量 (kg)	3L以上		493	311	224	180	186	255
	2L		821	387	666	359	371	255
	L		1,890	1,240	814	2,337	1,206	1,358
	LM		1,233	1,008	1,111	1,528	1,485	1,188
	M		493	930	740	1,708	1,206	934
	S		1,315	620	963	630	742	679
外品			3,532	2,170	3,037	1,257	1,114	2,886
M以上の製品率(%)			50.4	58.1	47.1	76.4	70.6	52.8

B区(密植栽培)

項目		品種	5,333株/10a当たり					
			農林一号	男爵薯	キタアカリ	ワセシロ	トヨシロ	メイクイン
総収量		(kg/10a)	9,599	7,400	8,213	8,639	5,973	6,506
規格別収量 (kg)	3L以上		244	173	191	454	576	81
	2L		1,093	1,157	573	682	1,008	317
	L		2,430	1,330	1,337	1,819	1,223	872
	LM		1,944	1,503	1,719	1,724	791	793
	M		1,336	1,098	1,050	1,572	935	1,031
	S		972	694	669	910	576	1,111
外品			1,580	1,445	2,674	1,478	864	2,301
M以上の製品率(%)			73.4	71.1	59.3	72.4	75.9	47.6

※規格 3L 260g 以上 2L 190~260g 未満 L 130~190g 未満 LM 90~130g 未満 M 70~90g 未満 S 70g 未満

7 病害虫防除履歴

殺虫剤			殺菌剤		
7月31日	アディオソ乳剤	2,000倍	7月31日	ダコニール1000	1,000倍

8 試験結果概要

(1) 生育経過

浴光催芽を4月25日に始め、5月17日に植付けを行った。

萌芽始めはA・B区での違いはなく、農林一号とキタアカリが最も早く6月1日に始まっている。最後にトヨシロが6月3日に始まった。A区萌芽率では最も高いのが農林一号、B区では男爵薯となった。低いものではA・B区共にメイクインとなっている。着蕾期から1~2日ほどの差が出始めている。枯凋期はA区ではキタアカリが最も早く8月23日に始まり、トヨシロが29日と最後になった。B区では男爵薯が8月23日、トヨシロが9月2日となっている。

(2) 収量調査結果

収量はA区の農林一号が9,777kgと最も多かった。次はB区の農林一号9,599kg、B区のワセシロ8,639kg、B区のキタアカリ8,213kgとなっている。最も少なかったのは、B区のトヨシロ5,973kg、メイクイン6,506kgとなっている。M以上の割合ではA・B区で同品種と比較すると、ワセシロとメイクインを除くほとんどの品種が密植栽培であるB区のほうが多くなっている。また外品も少なくなっている。3L以上の割合が減り、2Lが多くなる傾向もある。

(3) 考察

農林一号と男爵、キタアカリの品種は、M以上製品収量では4,444株/10a当たりより5,333株/10a当たりの密植栽培の生産収量が高まる結果となった。

また消費者に人気のLM・L玉も多く密植栽培が優れている調査結果となった。しかし、トヨシロとメイクインについては収量、品質共に同様ではなく、今後の検討が必要と考える。